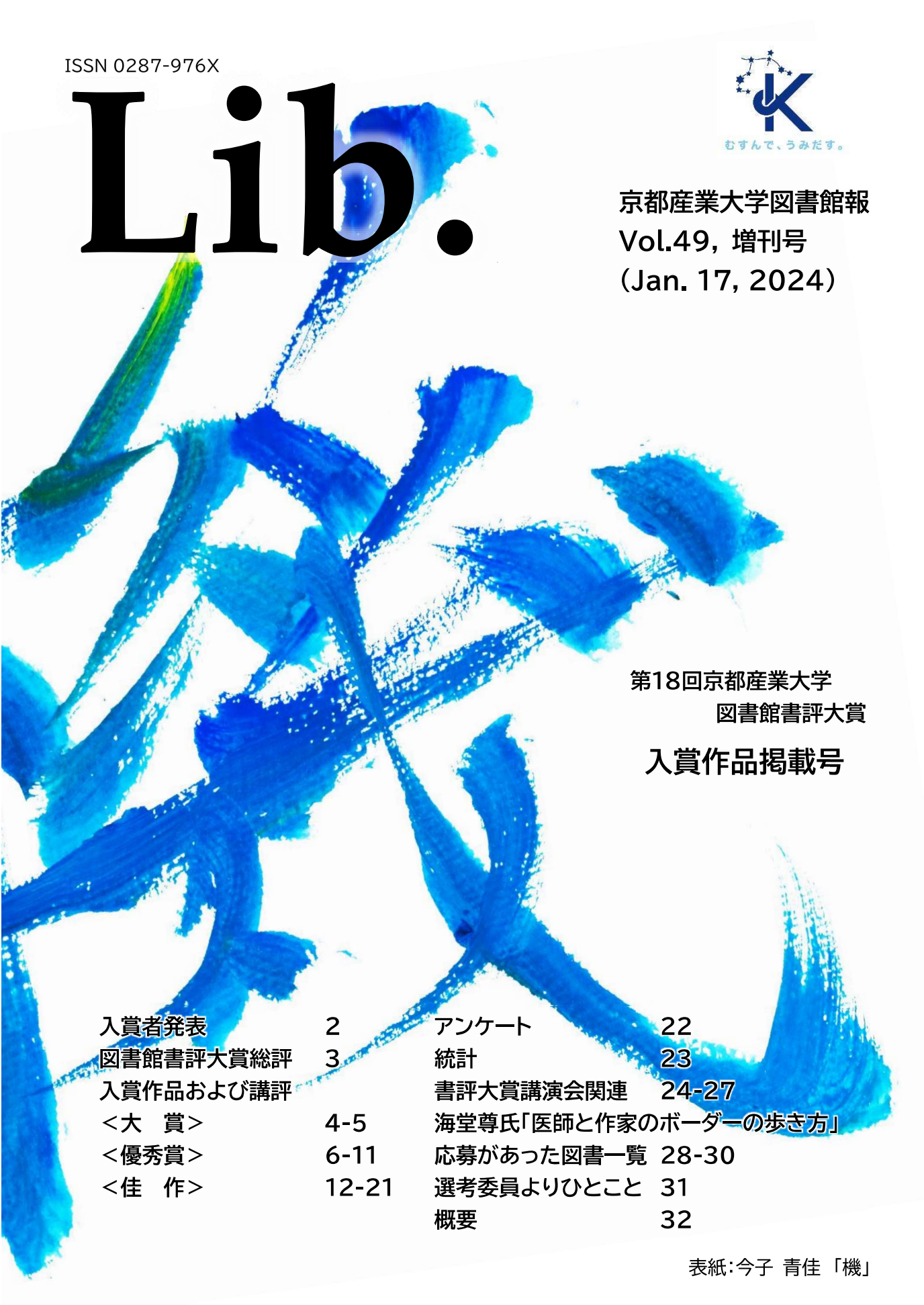
ISSN 0287-976X

Lib.

むすんで、うみだす。

京都産業大学図書館報
Vol.49, 増刊号
（Jan. 17, 2024）



第18回京都産業大学 図書館書評大賞

入賞作品掲載号

入賞者発表	2	アンケート	22
図書館書評大賞総評	3	統計	23
入賞作品および講評		書評大賞講演会関連	24-27
＜大　賞＞	4-5	海堂尊氏「医師と作家のボーダーの歩き方」	
＜優秀賞＞	6-11	応募があった図書一覧	28-30
＜佳　作＞	12-21	選考委員よりひとこと	31
		概要	32

表紙：今子 青佳「機」

入賞者発表

第18回京都産業大学図書館書評大賞には89篇の応募があり，図書館書評大賞選考委員会で選考した結果，次のとおり入賞者を決定しましたので発表します。

各賞ごと氏名の50音順

大　賞

氏　名	所　属 年　次	書　評　タイトル 『書　評　対　象　図　書』(著　者　名　等)
なかむら　そうた 中村　颯太	経済学部　経済学科 3年次生	正義感 『＃拡散希望その炎上、濡れ衣です』(冨長御堂著)

優　秀　賞

しげはら　ひろき 重原　広希	現代社会学部　現代社会学科 3年次生	正義という名の免罪符 『正義を振りかざす「極端な人」の正体』(山口真一著)
たけだ　いおり 武田　依央梨	文化学部　京都文化学科 2年次生	「好き」が持つ力 『羊と鋼の森』(宮下奈都著)
なかたに　けんたろう 中谷　健太郎	文化学部　国際文化学科 4年次生	蔓延るエゴと空言 『蝿の王』(ウィリアム・ゴールディング著 ； 平井正穂訳)

佳　　作

かぎやま　いつし 鍵山　唯志	経済学部　経済学科 1年次生	「一九八四年」に見る現代社会 『一九八四年』(ジョージ・オーウェル著 ； 高橋和久訳)
かねだ　たくみ 金田　拓巳	法学部　法律学科 2年次生	嘘つきは誰だ 『六人の嘘つきな大学生』(浅倉秋成著)
かもね　ちか 鴨根　千佳	文化学部　国際文化学科 2年次生	夢のような1年間 『かがみの孤城』(辻村深月著)
なかの　もえぎ 中野　萌黄	経営学部　マネジメント学科 2年次生	異邦人 『異邦人』(アルベール・カミュ［著］； 中村光夫訳)
ひらい　ゆうこ 平井　由芙子	文化学部　国際文化学科 4年次生	見えない「黄色いカーディガンの女」 『むらさきのスカートの女』(今村夏子著)

図書館書評大賞総評

図書館書評大賞選考委員会
図書館長　大平　睦美

第18回図書館書評大賞への応募は89名から89篇の作品の応募があった。応募89作品は予備選考、本専攻を経て、大賞1名、優秀賞3名、佳作5名の9名の入賞者が決定した。今年度の応募の特徴としては、2年生の応募が多かったこと、またゼミなどで先生方からの働きかけによって応募された作品も多数あった。応募された学生と共に応募に際してアドバイス頂いた先生方にも感謝申しあげる。学部別では文化系の学部の応募が依然として多いが、今年度は情報理工学部からの応募があり、加えて生命科学部からも昨年に引き続き応募があり、文系のみならず理系学部からの応募も増加しており、図書館書評大賞が図書館の行事として学生の中に定着してきていることが推察できる。大学での学びは、理系、文系といった明確な区別はされずボーダレスになりつつある。10学部が一つのキャンパスに集う本学の特徴を生かし、全ての学生が互いに理系文系の区別なく得意分野による情報を受配信できる場としての書評大賞への応募を期待している。

今年度の応募作品は正義や、真実とは何かということがテーマになった作品が多いように思えた。昨年2月のロシアのウクライナ侵攻から、まだ戦火が止まず、イスラエルとパレスチナとの戦い、その他にもアフリカなどでも内戦など平和には遠い状況の国がある中で、戦火は直接的な兵器だけではなく、情報を使った戦いも広がっている。そのためか、正義とは何か、何を信じればいいのかという問いを含むような書評が多くあったように感じる。情報社会と言われる現在を生きる私たちは、氾濫する情報の中で、何が正しく、何が正しくないのかを自分自身で判断する力を持つことが必要されている。どうすれば、そのような力を持つことができるのか、何を信じて生きればいいのか、書評を通じてそのような問いを受けているようであった。それに対する回答を得ることは決して容易なことではない、あるいはそれに対する回答などないのかも知れない。しかし、それを問い続けて欲しいと考えている。ただ本を読むのではなく、疑問を持って問い続けていくことが情報を判断する力を育成することにつながり、そのような本の読み方、発信の仕方に対して大学図書館が支援する一つの方法をして書評大賞があるのではないかと考えている。本年度パシフィコ横浜で開催された図書館総合展に参加し、本学の図書館書評大賞は、18年間で約2，000作品、平均すると毎年100篇程度の応募があり、国内の大学で行われている書評大賞の中では、最大規模であると評価されている。今後とも大学の教育と連携し変化しながら継続したい。

図書館書評大賞に先立ち、図書館書評大賞講演会を7月4日（火）に作家の海堂尊氏を招いて開催した。「医師と作家のボーダーの歩き方」と題された講演会では、講師ご自身の医師としての経験や作家としての考え方、本を書くことへの意識など幅広い視点からご講演いただいた。氏もやはり今起っていることに対して疑問を持つことが大切だと話された。また質疑応答でも会場から多くの質問が寄せられるなど、94名の参加者にとって意義深い講演会となった。併せて、講演後のサイン会実施等初の試みも行い、盛況のうちに終えることができた。

最後になったが、ご協賛頂いた京都産業大学同窓会、丸善雄松堂株式会社、株式会社紀伊國屋書店のみなさま、そして多忙な中で専攻に携わって下さった書評大賞選考委員会の先生方、職員のみなさまに改めて厚く御礼申し上げる。

第18回 京都産業大学図書館書評大賞

大　賞

経済学部　3年次生

中村　颯太（なかむら　そうた）

書 名：『#拡散希望その炎上、濡れ衣です』

著 者：冨長御堂

出版社，出版年：宝島社，2023

「 正義感 」

SNSが普及した今日、誰もが簡単に情報の発信者となることが可能となった。SNS登場前に比べ遥かに膨大な情報を収集・拡散できるようになり、我々の生活を便利にした。その半面、新たに大きな社会問題も生み出した。それが「炎上」である。

炎上は現代人にとって身近な話題だが、大多数は炎上事件の傍観者であり自分自身が炎上対象になるとは考えていない。本作品の主人公、藍原ひかるもそう考えていた。炎上するまでは。

藍原ひかるは優秀で人当たりの良いウェディングプランナーであり、同じ部署で働く美濃昭彦と共に野間口夫妻という客を相手に仕事をすることになる。ひかるは美濃の補佐的な役割に留まるよう上司に指示されるが、美濃の仕事ぶりは雑でミスを頻発、挙句そのミスを式直前まで報告しないなど酷いものだった。結果、夫妻の結婚式は大失敗。夫妻は怒りをぶつけるが、夫妻と会社の認識の齟齬により、式直前まで尽力したひかるが失敗の原因だと濡れ衣を着せられてしまう。さらに事態は悪化し、野間口夫妻とその友人がSNSに「A原に式を無茶苦茶にされた。」等と書き込み、大きな炎上へと発展する。

本作は普段炎上の傍観者でしかない我々読者に炎上当事者の疑似体験をさせてくれる。誹謗中傷の描写は現実の炎上時の投稿そのままのように表現されており、主人公に感情移入して読むほどに心無い誹謗中傷の描写が読者の心に深く刺さる。

ただ、登場人物の中で悪意を持っている者は誰一人いない。野間口夫妻はこれ以上不幸な新郎新婦を生み出したくないという正義感から、夫妻の友人は不幸な友達の力になりたいという思いからSNSに書き込み、式の失敗の原因である美濃ですら話し合いの過程でひかるが悪いと勘違いしている。さらに、一見悪意の塊のように思える誹謗中傷を書き込むSNS利用者にすら純粋な悪意はない。彼らもまた、可哀想な新郎新婦の書き込みに感化され、悪人であるA原を許せないという「正義感」で誹謗中傷を行っている。ひかる目線では

心無い誹謗中傷であっても、彼らにとっては正義なのだ。この認識の差を著者の冨長御堂氏は自然に文章に落とし込んで描写することで主人公の立場で読む読者の感情を直接揺さぶるような作品に仕上がっている。

本作の核心は登場人物全員が自分は正義だと信じていることだ。ただし事件の真実は正義と悪だけで分類して表せるほど単純ではなく、信じている正義が本当に正しいのかは当人達には分からない。

現実の炎上事件でも度々、法の範疇を超えた所謂「私刑」が問題となっている。犯罪者に石を投げるかのように、炎上した悪人に正義という名目で数千、数万の言葉の刃を投げつけるのが当たり前になっている現代社会の歪さに、本作品を通じて冨長御堂氏は疑問を呈しているように感じられた。本作品を読むことで、我々読者は炎上を単なる出来事として消費する大多数の傍観者のあり方にも考えを巡らすことになる。

選考委員による講評　　**選考委員代表　法学部教員　上野　達也**

本書を手に取るべき読者層として、「日頃SNSを利用しているが『炎上事件』の実態をよく知らない人びと」が想定される。本書の書評としては、こうした人びとに対して本書を手に取ってもらえるよう、展開される物語の魅力とそのテーマをいかに伝えるか、ということが問われることになる。

この点につき、本書評は高く評価することができる。まず、本書評は、ストーリーの簡潔な紹介の中に適切に本書のテーマを組み込んでおり、本書評を読む者を引きつけることに成功している。そして、本書の核心が、「登場人物全員が自分は正義だと信じていること」にあると指摘することにより、単なる善と悪の二元論として読むべきではないことを、上記の読者層の人びとに対して適切に示している。また、本書評は、本書の後半（炎上事件が法律問題としてどのように「解決」されるのか、当事者の視点からストーリーが展開される）について触れていないが、その判断は適切であろう。なぜなら、「法律問題」としての側面を表に出しすぎてしまうと、本書を手に取るべき読者層を遠ざけることになってしまうからである。

以上のように、本書評は、本書を手に取るべき読者層にも配慮したバランスのとれた優れた書評であり、大賞に値すると評価することができる。

入賞者から一言

大賞に選出していただいたことをとても嬉しく思います。誠にありがとうございます。本書評をきっかけに作品を読んでみたいと思う人が少しでもいてくれると幸いです。久々に小説を読んで改めて本を読むことの楽しさに気付けたので、今後も読書を続けていきたいと思います。

第18回 京都産業大学図書館書評大賞

優秀賞

現代社会学部 3年次生

重原（しげはら） 広希（ひろき）

書 名：『正義を振りかざす「極端な人」の正体』

著 者：山口真一

出版社，出版年：光文社，2020

「 正義という名の免罪符 」

近年、ネット上の誹謗中傷が、大きな社会問題となっている。「感染した学生の住所を教えろ」「大学に火をつける」。これらの強要や脅迫は、実際に本学である京都産業大学でクラスターが発生したときに寄せられた文言である（NHK NEWS WEB「一集団感染の京産大に避難相次ぐ 脅迫めいた内容も 新型コロナ」 2020年4月9日配信）。また最近では某回転寿司店で男子高校生が迷惑行為をしている動画がネット上にアップされ、瞬く間に炎上。多数の心無い誹謗中傷と住所の特定までもがされたのである。いったいどのような人がこれらの誹謗中傷を行い、どのような対策が考えられるだろうか？

それに対して本書は、誹謗中傷をしている人のことを「極端な人」と位置づけた上で、計量経済学的な立場から、その実態と対策について、議論したものである。本書の前半パートでは、「極端な人」は正義を動機に行動していること、少し裕福で役職付きの中高年の男性に多いことなど、「極端な人」の実態が多数の事例とデータを基に説明されている。後半パートではその対策として、被害者救済に焦点を当てた法整備や、自身が「極端な人」にならないための五箇条「①情報の偏りを知る」「②自分の『正義感』に敏感になる」「③自分を客観的に見る」「④情報から一度距離をとってみる」「⑤他者を尊重する」などが紹介されている。著者である山口真一氏は、計量経済学を専門としている。そのため、本書では様々なデータを用いた計量分析の結果が提示されている。こう聞くと「客観性のある本だが少し難しいのではないか」と思う人もいるだろう。しかし、著者は「あさイチ」や「クローズアップ現代＋」（NHK）などのメディアにも多数出演しており、それらの経験を用いて分かりやすくかみ砕いて説明してくれている。

私が著者の主張で特に印象的だったのは「安易な法規制は危険である」という点だ。法は万人に適用されるがために、一部の「極端な人」対策で法規制を強化すると、かえって生

きづらい世の中に変わってしまう。また、「極端な人をもっときつく罰しろ」という気持ちは正義を理由とした暴力になってしまう。「極端な人」は自身の正義を動機に行動するため、それでは同じ穴の狢である。それ故、著者が述べる「被害者に寄り添う法律が大事である」という点に深く共感する。

本書を通して得た教訓は「正義とは誰しもが持っている麻薬である」ということだ。一度中毒に陥ってしまうと、「正義」を免罪符にして、簡単に他者を攻撃してしまう。ましてや我々が生きている社会はネット社会である。対面でのコミュニケーションが強いられていた昔とは違い、今は誰しもが簡単に、自由に発言することが出来る。つまり、簡単に「正義を振りかざせる」社会でもある。そのような社会で自身が「極端な人」に陥らないためにも、ぜひ本書を手にとっていただきたい。

選考委員による講評　　**選考委員代表　外国語学部教員　岩﨑 周一**

論評の対象となる書籍を深く読み込み、内容を適切かつ簡潔に表現することに成功した、素晴らしい書評である。「正義」の持つ問題性、安易な法規制の危険性、そして具体的な対策の指摘・提示を適切に記しているところが対象書籍の優れた点だが、この書評はこれらを的確に把握し紹介している（掲げられる「正義」の背景に、境遇や社会に対する不満が潜在しているという指摘（142－147 頁）にも触れていれば、なお良かった）。さらに、対象書籍の内容と密接に関連した身近な話題（とくに本学の関係者にとって）を確かな情報源に基づいて冒頭に紹介し、読み手の興味関心を巧みに喚起する構成がとられているところも心憎い。読みやすくなるよう工夫された文章の巧さも特筆すべき点である。

なお、当書評に限らず、今回の応募作品には、「正義」の意味を問う内容の書籍をとりあげたものが多くみられた。身近な話題と社会的関心を結び付け、読書を通じて考察を深めようとする学生たちの存在に、大いに感銘を受けた。

入賞者から一言

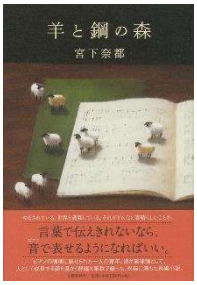
この度は優秀賞に選出していただき、誠にありがとうございます。書評を書くのは今回が初めてでしたが、我ながら上手いこと作品の魅力を伝えれたと思っています。原稿の添削及び書評大賞を勧めてくださった伊藤理史先生にこの場を借りて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

第18回 京都産業大学図書館書評大賞

優秀賞

文化学部 2年次生

武田（たけだ） 依央梨（いおり）



書 名：『羊と鋼の森』

著 者 ： 宮下奈都

出版社 ， 出版年 ： 文藝春秋 ， 2018

「『好き』が持つ力 」

「羊と鋼の森」は高校２年生の主人公・外村が調律師・板鳥と出会うところから始まり、不器用ながらも自分にとっての調律を突き詰め、ピアノに張られた弦である「鋼」とその弦を叩くハンマーの「羊」、その２つからなる「森」、すなわちピアノの世界で生きる外村の成長過程を描く。

そもそも調律とは、最も良い状態で音を発生させるためにピアノの音程のばらつきを整えることを指す。外村はピアノが弾けないのはもちろん、音楽自体に精通している訳でもなかった。ただ、板鳥の作る音に魅了されて調律の世界に飛び込む。

外村は専門学校を卒業し、板鳥のいる楽器店で調律師として働き始める。新人外村の教育係的な立ち位置の柳、過去にピアニストを目指していた秋野、そして外村が尊敬する板鳥と、個性豊かな他の調律師に囲まれて過ごす。比べて外村には何か音楽や調律に秀でた才能や素質があるわけでは無い。そんな彼を一言で表すと平凡である。しかし、何とか良い調律がしたい、という一心で外村は真剣に目の前のピアノと、音と向き合う。外村は基本的に新人調律師として未熟な姿で描かれているが、先輩調律師や顧客に刺激を受けながら成長していく様子が描かれている。

物語の題名にもなる「森」は、草木が茂り、1度入ってしまえば道らしい道も出口もないという森の未知な印象と、美しいと感じる音に絶対的な正解のない調律の世界との類似をよく表していると感じた。そんな絶対的正解のない音を作る調律の「森」に音楽初心者の外村が飛び込み出口を探すという作業は並大抵のことでは無い。もし私が外村なら早々に諦めて新しい道を探すだろう。

そんな外村が終わりの見えない「森」で歩き続けられるのはどうしてなのだろうか。それは外村が調律やピアノに対して持つ「好き」という気持ちを持ち続けているからだと思う。外村は「僕は、ほとんどのことに対してどうでもいいと思ってきた」「才能がない」と言っているが、

調律に向き合う外村は違う。柳も「才能っていうのはさ、ものすごく好きだっていう気持ちなんじゃないか。」と言う。その通りだ。外村は良い音のためなら先輩であっても意見し、調律に同行する柳に「わがままだなあ」とまで言わせる。いつもメモを取り、仕事が終われば楽器店の2階で調律を練習し、家ではピアノ曲集を聴きこみ、良い音の追求に手間を惜しまない。これを外村は努力だとも無駄だとも思っていない。ただ「好き」という気持ちに素直なのだ。

終盤、「外村くんみたいな人が、たどり着くのかもしれないなあ」と秋野が言う。いずれ外村が彼の理想とする調律、音、つまり「森」の出口に「たどり着く」ということだろう。「好き」という気持ちは努力では手に入らない。一見何の才能が無いように見えても、「好き」という気持ちはある種の才能で、同時に可能性でもあると思う。「好き」という気持ちが持つ可能性や価値を「羊と鋼の森」は教えてくれる。

選考委員による講評　　**選考委員代表　文化学部教員　大平　睦美**

高校2年生の主人公・外村が人生の目標となる人物と出会い、平凡な高校生がそれをきっかけに、自分の「好き」を味方にして、貪欲なまでに「好き」を極めていく主人公の姿に、同年代の若者として共感を得ているのがよくわかる書評である。自分の「好き」なことはなんだろう？将来に希望をもちながら、自分は何がしたいのか、まだそれを見つけられない大学生も少ないないだろう。あなたの「好き」はすぐそばにあるかもしれない。「好き」を見つけるのはあなた自身である。それを見つけられた人も、まだ見つける途上の人にも、主人公を囲む暖かな登場人物とともに、音の森の中を散歩するような読書を多くの人に味わって欲しい。

入賞者から一言

今回このような賞をいただき大変光栄です。苦心しながらじっくりと１冊の本と向き合い自分が感じたことを言語化する、という経験が出来たこと、そしてそれが評価していただけたということをとても有難く思います。本書評を読んだ方々に少しでも「羊と鋼の森」の魅力が伝われば幸いです。

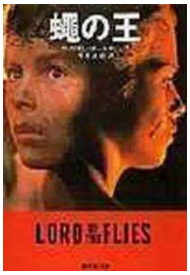
第18回 京都産業大学図書館書評大賞

優秀賞

文化学部 4年次生

なかたに けんたろう

中谷 健太郎



書 名：『蠅の王』

著 者 ： ウィリアム・ゴールディング著 ；
平井正穂訳

出版社 ， 出版年 ： 集英社 ， 1978

「 蔓延るエゴと空言 」

子ども同士の関係とは、大人の世界の縮図であるという。子どもたちは大人を見て学び育つのだ。ならば一人の大人もいない世界に取り残された子どもたちは、如何に生きるのだろうか。『蠅の王』はウィリアム・ゴールディングの代表作である。

舞台は南太平洋の無人島、疎開に向かう少年たちの飛行機が不時着した。奇跡的に生き延びた少年たちは大人のいない楽園を気儘に過ごすのだが、子どもの一人が夜闇に〈獣〉を見たと怯えだす。不明瞭な〈獣〉への恐怖は、少年たちの間でじわじわと伝染していき、やがて彼らを対立へと追い込むのであった。

大人が子どもたちに屡々怖い話を言い聞かせるときのように、大人に比べて想像力に富み、架空の怪談さえ信じてしまう子どもたちは微笑ましい。だが、大人のいない無人島の夜に〈獣〉を夢想し、幻影の姿形を膨らませていったのも子どもの限りない想像力だ。やがて子どもたちは知らずの内に〈獣〉の怪談の膨張に呑み込まれてしまう。その末路は、疑心暗鬼による分断に他ならない。閉ざされた無人島を舞台に、社会内部で流言飛語が蔓延る様を、子どもの想像力の暴走に乗せて描き出すのである。しかし、そんな放埒な仲間の子どもたちの道標になろうと奮闘したのが少年・ラルフだ。

ラルフは奔放な子どもたちと違い、凛々しく大人びた少年だ。自然とリーダーに推されるのも当然だろう。一方彼に反して、聖歌隊長のジャックは承認欲求が強く獰猛な少年で、ラルフに幾度となく楯突いた。冷静沈着なラルフを指導者に、子ども集団の生活も最初はうまくいく。しかしラルフを妬むジャックは気儘な生活を望んだ。挙句、豚を惨殺し食べる享楽を餌に子どもたちを誘惑して取り込み、徒党を組んでラルフの友達を殺してしまうのである。少年たちの暴走に人間生来の怠惰とエゴイズムを読み取るのは容易い。規律を重んじるべき聖歌隊のジャックが、蠅が集く豚の生首「蠅の王」を信仰する様こそがその象徴だ。

優秀賞

本作は子どもたちの幼い激情に満ちている。そんな物語を大人の読者が子どもたちの目線に立って読むことは難しい。超然として怠惰も利己主義も悪だと決着する方が簡単だろう。だが本作は悲劇であると同時に子どもたちの懸命な生の記録でもある。秩序と向き合いながらも破滅を迎えた少年たちの我儘や歪んだ思惑を、大人の視点から寄り添い想像できるかが本作から気付きを得る為の鍵となる。激情に満ちた世界を生きた子どもたちに寄り添えた時、読者が自らの内に再発見するのは人間の醜悪さではない。自らに潜む、幼く純粋な弱さなのである。

本作の少年たちの所業を糾弾することは容易だが、極限状況に奮闘する少年たちから学べることは多いはずだ。教室から職場、国家に至り、クローズドな世界は多様に存在し、そこには空言や利己主義が台頭し得る。不条理の中でも〈獣〉を払い除けられるか、エゴイズムと対峙できるかを、『蠅の王』は読者に問い掛け続ける。

選考委員による講評　　**選考委員代表　現代社会学部教員　東　園子**

『蠅の王』は1954年の出版後、1963年と1990年に映画化され、2017年にも少年を少女に置き換えた映画版が構想され物議を醸したそうだ。本書評からは、この作品が「現役」であり続ける理由がうかがえる。

「子ども同士の関係とは、大人の世界の縮図であるという」と書かれているように、支配欲に取りつかれ、権力欲を満たすことを優先して重要なことを見失うジャックや、周囲が彼に従っていくような状況は、社会の至るところに見出せる。他方、登場人物の言動は大人にはよく理解できない面もある。だが、評者は子どもたちに寄り沿って読むことを勧める。確かに子どもなら、無人島に取り残されても、まずはわくわくするかもしれない。教師の経験のある作者は児童心理に通じていたことを思わせる。

大人と子どもの狭間にいるような大学生は、この小説を読むのにふさわしい年代かもしれない。本書評は、寓話的な本書を読む際の導きの糸になってくれるだろう。

入賞者から一言

この度は、書評大賞優秀賞を頂戴し、誠に光栄に思います。
昨年度は佳作賞として御選出頂きましたが、当時からの成長を深く実感しております。
大学を卒業した後も、本を読む楽しみを忘れず、文学の奥深さを多くの人に伝えていきたいです。
この賞は、ゼミの仲間の協力や、教授の丁寧な指導があってこその賞でした。
本当にありがとうございました。

第18回 京都産業大学図書館書評大賞

佳　作

経済学部　1年次生

鍵山（かぎやま）　唯志（いつし）

書 名：『一九八四年』

著 者 ： ジョージ・オーウェル著 ； 高橋和久訳

出版社 ， 出版年 ： 早川書房 ， 2009

「「一九八四年」に見る現代社会 」

「戦争は平和なり 自由は隷従なり 無知は力なり」この一文は、本作に登場する党のスローガンである。

著者のジョージ・オーウェルは、1903年にイギリスに生まれた。スペイン内戦において、社会主義側の義勇軍に参加した経験を持つ。そしてスペイン内戦で彼は、スターリン率いるソ連からの弾圧を受け、フランスに脱出した。社会主義者という立場から見ると、本来味方であるはずのソ連から弾圧を受けたことがオーウェルの思想に変化をもたらし、これ以降は反共産主義、反全体主義といった思想を持つようになった。彼は第二次大戦中に、共産主義を揶揄した寓話「動物農園」を出版し、ベストセラー作家となった。

本作は、1949年に刊行された小説で、全体主義国家により統治された近未来の世界を描いている。主人公ウィンストン・スミスの住む国は、ビッグブラザーという独裁者の率いる党によって支配されている。この社会では思考警察によって人々の思想や行動は厳しく制限されており、ウィンストンは真理省の下級役人として歴史の改竄作業に従事していた。この国では、党にとって都合の悪い過去は改竄され、一切の記録が残らないため、過去の事は真理省の職員ですら分からない。ウィンストンは党の体制に疑問を抱いており、日記を書き始める。これは発覚すれば極刑に処されるような行為だったが、ウィンストンはこの日記を通じて、体制への疑いを確信へと変えてゆく。そんな中、ウィンストンはジュリアという同僚の女性から手紙で告白を受ける。自由な恋愛は禁止されていたため、二人はテレスクリーンや人目を避けて出会いを重ねる。やがて二人は愛し合うようになり、反体制的な活動にも惹かれるようになってゆく。

本作は人々が極端に管理された全体主義社会、監視社会を描いており、その世界観や作中に登場する概念などには、現代にも通じるものがある。例えば、作中にはニュースピークという言語が登場するが、この言語には、人々の思考を誘導するための「B語群」と呼ばれ

る単語がある。たとえば戦争、軍事を司る機関は「平和省」、歴史記録の改ざんを行う機関は「真理省」とし、いずれもその実態とは正反対の意味をもつ呼称を使って印象操作を行っている。実は、こういった印象操作は現代社会に於いて日常的に用いられている。

例えば我々は、死亡した際に保険金が受け取れる保険を「生命保険」と呼んでいるし、軍事費の事を安全保障費と呼んでいる。こういった言葉による印象操作はダブルスピークと言われるが、これもまた、本作から派生した言葉である。こういった事柄は、日常のあらゆる事柄を政治的側面から考えさせられる、大変興味深いものである。

本作は今から70年以上前に書かれた本であるが、メディアが発達し、情報が錯綜する現代には一読の価値があるだろう。

選考委員による講評　　**選考委員代表　国際関係学部教員　山本　和也**

本書評の特徴は、作品に描かれた監視社会の中に現代（日本）社会を見出す点にある。死亡保険を生命保険あるいは軍事を安全保障と語る言説は、表現による概念操作である。一見すると思想の自由が保障されている現代社会においても、情報の受け手は自身の思想をこうして操られている。重要なのは、これが権威（authorities）による行為に留まらなくなったという評者の気づきである。SNS隆盛の現在、あらゆる人が操作の主体と客体になる「超操作社会」を評者は理解している。このように、異なる2つの社会の間の隠れた共通性を焙り出した点に本書評の真価があるが、1点付言しておきたい。同書は3部構成の作品であり、本書評はその2部までに主眼を置いている。第3部は、反逆を試みた主人公が当局に捕まり骨抜きにされるストーリーであり、「思想の自由」弾圧の恐ろしさを描くオーウェルの主題でもある。この点に関する評者の見方を聞けなかったのは残念である。

入賞者から一言

今回、受講していた経済学入門セミナーの先生に推薦していただいた為に書評を応募いたしましたが、まさか入賞させていただけるとは思いませんでした。佳作という語を広辞苑で引きましたら、その意味は、「できまえの良い作品」とのことでした。このような評価を賜りまして恐縮です。ありがとうございました。

第18回 京都産業大学図書館書評大賞

佳　作

法学部　2年次生

金田（かねだ）　拓巳（たくみ）

書 名：『六人の嘘つきな大学生』

著 者：浅倉秋成

出版社，出版年：KADOKAWA，2021

「 嘘つきは誰だ 」

本書は、就活生である波多野祥吾の視点から見た株式会社スピラリンクスの最終選考の様子と、その選考の合格者の視点から見たその後についての二部構成になっている。スピラリンクスの就職試験の最終選考に残った波多野、九賀、矢代、袴田、森久保、嶌ら6人の大学生たち。初任給に破格の50万円を提示する新進気鋭の新興企業から与えられた最後の課題は、6人によるグループディスカッションだった。内容によっては全員合格も十分にあり得るという通達を受けた6人は結束し、着実に良いチームを作り上げていくのだが。決起集会を兼ねた飲み会の帰り、6人の下にメールが届く。そこには、今年度の採用枠は1人であり、その1人はグループディスカッションによって皆さんに決めていただくという、選考の方針が大幅に変更された旨が記されていた。皆で協力し合ってきた事実は変わらないが、誰もが選ばれるべき1人は自分だと強く思う不穏な状況で迎えた最終選考当日、順調に議論が進む会議室から6通の封筒が見つかる。その中には、6人それぞれの「罪」についての告発文と、それが収められた写真が同封されていた。

就職活動とミステリーという、相反する要素が混ざった本書は、上質なミステリーであると同時に我々大学生の殆どが経験するであろう就職活動の実態を惨いほど剥き出しで描いている。突如現れた告発文を軸にして進む泥沼のグループディスカッションは、六人の「罪」をじわじわと炙り出していく。第一部では一体誰が何のために告発文を仕込んだのか、六人の「罪」とは何なのか、そして誰がこのディスカッションを制して内定を勝ち取るのかを、読者はまるで自分がこの最終選考の参加者になったかのような臨場感と共に追い求めることになる。

第二部では、晴れて内定を勝ち取りスピラリンクスの社員となった合格者が、波多野祥吾の訃報の連絡を受けた場面を回想するシーンから始まる。かつての戦友の死をきっかけに、数年前の最終選考の関係者へのインタビューを敢行する合格者。そして明らかになる真実

は、是非読者の皆さんの目で直接確かめてもらいたい。

最後に、本書の一節に「誰もが胸に『封筒』を隠している。それを悟られないよう、うまく振る舞っているだけ」とある。感じのいい体裁を取り繕っていれば、よほどのことが無い限り封筒の存在が他人にばれることは無いだろう。誰もが様々な封筒を隠していながら、なんでもないふりをして毎日を生き、そうしていつかは封筒を抱えたまま死んでいく。そんなもの破り捨ててしまえば良いという綺麗事は必要ないということを本書は訓えてくれる。封筒を隠したまま、言い換えれば嘘と共に生きていくことこそが、人が社会を上手に生き抜いていくための術なのだと切に感じる。

選考委員による講評　　**選考委員代表　理学部教員　伊藤　豊**

フィクションの小説から人生の教訓を得ましたと書いてある書評が多く、いかがなものかと思いつつ、本書評が気になり自分でも読んでみることにした。本書は、一つの同じ就活「事件」を語り手二人から見た事件として当事者の主人公に語らせる構成で、前半は人間不信といった終わり方だが、後半ではネットの悪評の裏には実は…という背景が明かされていく。なぞ解きの過程は語り手が語ってくれるのだが、人物像が、二転、三転する後半にはぐいぐいと引き込まれた。本書評では、後半の内容にあまり触れることなく、もっぱら前半の展開が紹介され、教訓的な分析がされている。ネタバレ防止のためにはここでやめておくしかなかったのか。意識的にしていたとするとなかなかあっぱれ。作り話の小説から筆者も自分なりの教訓を得てしまった。普段小説を読まない筆者に機会を与えてくれた本書評は、本小説の魅力を伝えることに成功しており労作だと言えよう。

入賞者から一言

自分の書評をこのような形で評価して頂いたこと、非常に嬉しく思っております。これからも誰かの心に刺さるような文章を書けるように、大好きな読書を続けて文章力を磨いていきたいです。

第18回 京都産業大学図書館書評大賞

佳　作

文化学部　2年次生

鴨根（かもね）　千佳（ちか）

書 名：『かがみの孤城』

著 者：辻村深月

出版社，出版年：ポプラ社，2021

「 夢のような1年間 」

主人公の安西こころは学校に居場所がなく不登校になった。ある日、部屋にある大きな姿見が光り、こころは鏡の中に吸い込まれる。目を開けるとそこは大きなお城の中で、見知らぬ中学生6人、そして狼面の少女がいた。「この城の奥には、誰も入れない、“願いの部屋”がある。入れるのは1人だけ。願いが叶うのは1人だけだ、赤ずきんちゃん。」と目の前の狼面の少女は7人の子供たちに告げる。今日から3月30日までこの城で“願いの部屋”に入る鍵探しをすることになった彼ら。今、それぞれの願いをかけた鍵探しが始まる。

登場人物は全員が何らかの理由で雪科第五中に行けていない。そんな彼らが集められた城にはたった1つの破ってはならないルールがあった。それは夕方5時までに鏡を通って必ず家に帰ること。毎日城が開くのは、日本時間の朝9時から夕方5時まで。ルールを破ってしまえば彼らは狼に食べられてしまう。はじめはそんな現実離れした状況に困惑しながらも、現実に居場所がない彼らにとっていつしかその城はかけがえのない居場所となる。

この物語の見どころは変化する7人の人間関係と徐々に明かされていく彼らの過去、そして散りばめられた伏線が終盤になって一気に回収される展開だ。多感な時期を生きている彼らは様々なことを悩み、葛藤を抱えながらも前へ進もうとしている。そんな彼らの恋愛事情や些細なことでのすれ違い、家庭内や学校での問題は我々読者も共感するところがあるのではないだろうか。そして、「自分の居場所は1つじゃない」という大きなメッセージが本書には込められている。恋愛が発端となって起こった女子同士のいざこざ。それが高じて家にまで押しかけた同級生。こころは同級生が叩くドアの音を聞きながら、「中にいるこころを見つけたら、こころをここから引きずりだして、そして―殺してしまうだろう、という気が、大袈裟でなく、した。」と感じた。この文からはひしひしとこころの恐怖の感情が伝わる。しかしそれを誰にも相談できずにいた。こうしたことが原因となってこころは学校へ行けなくなる。他の6人も学校での問題、家庭内での問題、将来への不安、これらのことを誰にも相談

できずにいる子供たちばかりだ。そんな彼らは鏡の城を行き来するうちにお互い本音でぶつかり合えるようになる。子供は学校と家が世界のすべてだと思い込みがちだ。だが世界は広い。周りには手を差し伸べてくれる人がきっといる。本書は、自分1人では抱えきれないどうしようもないことからは逃げたっていい、そして周りの誰かに助けを求める勇気も時には必要なのだと教えてくれる。

作品の設定自体は現実離れしたものだが、共感出来るところが多く物語を身近に感じることができる。本書は生きづらさを感じている学生、学校や家庭内で問題を抱えている学生、そしてかつて学校で様々な葛藤を抱えていたであろう大人たちなど全ての世代に読んでほしい1冊だ。

選考委員による講評　　**選考委員代表　経営学部教員　福冨　言**

「共感出来るところが多く」「全ての世代に読んでほしい」との評者の言葉。学校や家庭だけでなく、閉ざされた集団の世界で起きるうんざりする物事は世代や時代を問わないから、この言葉の意味はよくわかります。悲しいことに、演劇やスポーツ界などでの事件が最近も報道されているし、毎年毎年その何千・何万倍もの報道されない問題があることは容易に想像できます。評者のいう「どうしようもないことからは逃げたっていい」「誰かに助けを求める勇気も時には必要」というのも本作品の普遍的なメッセージでしょうし、主人公が学校で出会う、言葉の通じない二人のように、問題の根源になる人たちが存在することもまた普遍的なメッセージなのかもしれません。

視線や言動の一部からその人の思いや意図を汲み取ろうとする繊細な主人公。終盤での伏線の一気な回収はこの作品の見どころとされますが、登場人物たちの繊細さと伏線の一つには違和感を覚えました。評者の共感部や批評ももっと聞かせてほしい、話題の端緒となる書評です。

入賞者から一言

この度は佳作に選出していただきありがとうございます。大好きな作品の面白さを伝えるためにはどうすればいいのか試行錯誤して書きました。本書評から一人でも多くの方に「かがみの孤城」の魅力が伝わっていれば幸いです。

最後に、書評を書くにあたりゼミでご指導してくださった中西先生には大変感謝しております。ありがとうございました。

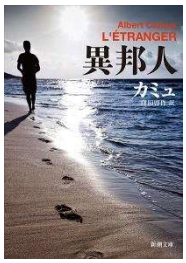
第18回 京都産業大学図書館書評大賞

佳　作

経営学部　2年次生

なかの　もえぎ

中野　萌黄



書 名：『異邦人』

著 者 ： アルベール・カミュ［著］； 中村光夫訳

出版社 ， 出版年 ： 新潮社 ， 1965

「 異邦人 」

これは、不可解な男の考え方に触れる小説である。

この男は感情が薄く、多くの人間とは少しずれた考え方の持ち主である。ある日女に自分を愛しているかと聞かれた時に「それにはなんの意味もないが、恐らくは君を愛してはいないだろう」と答えたり、母親の葬儀だと言うのに母親との思い出や想いは少しも思考せず、今の状況や通夜に来る人の容姿、動作のことばかり考えるような人間である。

第1部は、男がどういう人間なのかを大まかに理解するための展開がされている。ここで男に対して少しの愛着を持ってしまうことによって、2部で表現される他人からの評価にもどかしさを感じてしまう。そして第2部では殺人を犯して逮捕されるところから始まる。一貫して男からの目線で話は進むため男の異常さに気づきにくいが、周りからの目線やそれに対しての男の感情に違和感を覚えていく。人が、愛や結婚や犯罪者などという言葉に意味付けするのに対し、男はこれを一切認めない。そこにある欲望に忠実に生きているのだ。しかしそこに悪意はなく、変わった男だが嫌いにはなれない。人が日常生活を当たり障りなく送るうえで必要な簡単な嘘を彼はつかない。それによって疎まれることもあるが、周りの人間はやがてそんな彼に惹かれていく。日常を送る上ではそれでよかったかもしれないが、裁判の弁明ともなると話は違ってくる。自分の罪を軽くするための協力もせずただ暑いから早く房に戻って寝たいなどと考えている。この裁判も注目して読んでほしい。

さらに印象的なのは、やはり独房の中での暮らしや考え方の移り変わりである。多くの人間が死刑を間近にすると、これまで信じてもいなかった神に祈り、延命を請い、後悔し、過去の自分を責めるだろう。だが男はそんなことはしない。死刑自体に恐怖を覚え逃げることはできないかと考えはするものの、後悔などは無い。人を殺してしまった、なんと罪深いことだ、などという描写はなく、そのような考えも一切感じ取れない。ついに最後にはそんなことも無駄だと考え死を誰もが享受するものだと受けいれるのだ。

人間であれば当たり前だと思われるような感情や行動をしない一人の男の考え方に自らの普通というものが分からなくなり、傍から見た異常さ、まさに異邦人のような理解しがたい奇妙さが溢れだしてくる。不可解や違和感を散りばめたアルベール・カミュの作品をぜひ読んでみてほしい。

選考委員による講評　　**選考委員代表　文化学部教員　大平　睦美**

普通ってなんだろう？私たちは現実を見ているようで、実はイメージの中で生きていると言ったのはリップマンだ。主人公は、およそ多くの人々に共通するような感情をもっているようには思えない。この書評にあるように、読み始めたころには主人公の言動に対して不可解な気持ちになるのだが、読み進めていくと主人公に感情移入し始めていることに気がつくだろう。そこで「人間であれば当たり前だと思われるような感情や行動をしない男の考え方に普通というものが分からなくなり」となるのだ。この書評を読むと、私たちが「普通」と思っていること、普通は存在するのか？を問い直すことが必要だと感じる。マスメディアから発信される報道を見たり、聞いたりする度に、私たちの周辺にもこの主人公のような「異邦人」がいるのではないかと感じることはないだろうか？「普通」なかに潜む「異邦人」に気づくことができるよう、この本が多くの人に読まれることを希望する。

入賞者から一言

授業で書評を書く機会があり、せっかくだからと応募したところこのような賞を頂きとても嬉しく思います。これまで書評というものに触れてこなかったので分からないことだらけでしたが、異邦人の面白さを伝えられていればと思います。

第18回 京都産業大学図書館書評大賞

佳　作

文化学部　4年次生

平井（ひらい）　由芙子（ゆうこ）

書 名：『むらさきのスカートの女』

著 者：今村夏子

出版社，出版年：朝日新聞出版，2022

「 見えない『黄色いカーディガンの女』」

自称「黄色いカーディガンの女」である主人公は、変人として近所で有名な通称「むらさきのスカートの女」が気になって仕方がない。そんな主人公は、彼女が出かける際には一日中、彼女の一挙一動を「観察」する。そして、友人になりたい一心で、試行錯誤の上、どうにかして求職中の彼女を自身と同じ職場に働かせることに成功する。そこから、「むらさきのスカートの女」を中心としたさまざまな人間関係が展開していく。

冒頭部分、語り手である主人公の目を通して説明される「むらさきのスカートの女」は、確かに変わった人物だ。だが、それと同時に、脈絡のない説明とその合間に挟まれる主人公のエピソードは、明らかな主人公の異常性を感じさせる。主人公と彼女は、社会に溶け込めず、「変わっている」という共通点を持っている。しかし、職場が同じになったことで、「むらさきのスカートの女」が挨拶もでき、友好な人間関係も築ける、社会性のある人物だと分かり、「むらさきのスカートの女」ではない「普通」の人間だと明かされる。それを目の当たりにし、彼女の名を知ってもなお、主人公は変わらず通称で呼び、彼女との友人関係を望み、「観察」を止めない。話が進むにつれ、主人公の異常さだけが取り残され、際立っていく。

他者の口から主人公が語られることは数えるほどで、作中に主人公の名前や容姿などの客観的情報は、ほぼ提示されない。それは、主人公の他者との関わりが希薄なことを示す。読者には主人公の人物像が見えないように、社会において、そして「むらさきのスカートの女」からも主人公は見えない存在として扱われる。その一方で、主人公も本当の意味で彼女を見てはいない。物語の終盤、主人公は、その日の彼女の服装を尋ねられ、答えられない。主人公は、常に彼女を目にしながら、結局は自身の都合の良い歪んだ像を作り上げる。なぜなら、主人公にとって重要なのは、目に見える現実の彼女ではなく、友人になれるかもしれない「むらさきのスカートの女」という概念だからだ。そのため、主人公にとって彼女の名や服装は重要ではない。社会を見ているようで見ていない主人公を社会もまた、見ること

はない。主人公は孤独だ。誰からも関心を寄せられない主人公は、ただ存在し、社会を一方的に「観察」しながら、結局のところ、誰にも関心を寄せていない。

社会に埋没し、誰からも見られないという孤独さを抱えた自称「黄色いカーディガンの女」と、近所の有名人で、多くの視線を集める通称「むらさきのスカートの女」。主人公が、彼女と友人になりたいと望む姿には、彼女に対する憧れと羨望に加えて、誰かに見られたいという承認欲求が垣間見える。そして、主人公の異常性に恐怖を覚える一方で、彼女が直面する社会の生きづらさや孤独と承認欲求は、現代社会において誰もが抱く苦しみであり、読者が「黄色いカーディガンの女」から目を背けられない理由でもある。

選考委員による講評　　**選考委員代表　法学部教員　上野　達也**

「他の人にこの本を読んでもらいたい」という思いを持って本を紹介する（書評を執筆する）ときには、どこまでストーリーを紹介するか（どこまでの「ネタバレ」をするか）ということと、どのようにして「話しの続きを知りたい」と思わせるか、ということについて頭を悩ませることになります。

本書評は、この二つについて非常にうまくバランスをとった優れた書評であると評価できます。本書評は前半でストーリーを紹介していますが、そこでの「ネタバレ」は最小限に抑えつつ、登場人物の間でどのようなやり取りがあったのだろうか、どのような出来事が起こったのだろうか、という好奇心を読み手に生じさせることに成功しています。また本書評の後半では、本書（の主人公の人間性）に対する評者の考察が書かれていますが、その考察は、「本書を読んで評者と語り合いたい」と思わせるに足る魅力のあるものとなっています。

全体の評価としては佳作となりましたが、個人的には、大賞にも値する非常に優れた書評であると評価します。

入賞者から一言

選出いただき、光栄です。最初は、その題名と表紙に、読み始めてからは、主人公の奇人ぶりと予想のつかない展開にただただ惹きつけられ、『むらさきのスカートの女』は私の中で大好きな本となりました。そのような本で、このような賞をいただけて、大変嬉しく思います。ありがとうございました。

第18回 京都産業大学図書館書評大賞 アンケートと統計

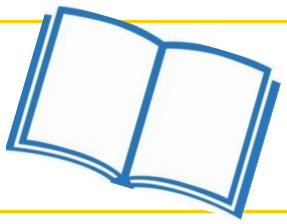
アンケートの回答を一部紹介します。ご協力ありがとうございました！

Q1）なぜ「書評大賞」に応募されたのですか。動機をお聞かせください。

- 文章を書くのが好きで、去年も応募したため、今年も応募しようと思ったから。
- 好きな作品の魅力が分かち合える人がいれば共有したいと思ったから。
- 普段本を読まないが、書評大賞をきっかけに本に触れることで本を読むきっかけに繋がるのではないかと考えたから。
- 書評を書くことでその作品に対して解像度が読み終える前よりも鮮明になり、自分の中で文字に表すことで満足感や達成感が得られると考えたから。
- 現代社会学部書評コンテストに以前出場し書評に興味を持ったから。
- 教員から応募するよう推薦があったから。
- 授業・ゼミ活動の一環として。

Q2）書評の対象図書をどのようにして選びましたか。（最もあてはまるもの1つ）

- 興味のある分野だから　25人
- 好きな作家だから　22人
- 話題の本だから　8人
- 先生からの推薦・指示　7人
- 図書館で見つけたから　5人
- その他　11人



Q3）次回も応募してみたいと思いますか。

「はい。」（55人）（理由）

- 自分の書いた書評をどう評価して貰えるのか知れる貴重な機会だから。
- 在学中にいろいろなことにチャレンジしてみたいと思っているから。
- 書評を書くことで自身の作文能力を育み、数を重ねることでさらなる成長を見込めるから。
- 書評を書くために同じ作品を何度も読み返すことで新たな発見があり、読書は量よりも質が重要であることに気が付いたから。
- 今回初めて書評に取り組み、その難しさを知ることができた。次回も応募して自分自身の文章力・表現力の向上に繋げたいから。
- 今まではその図書を読むだけで終わっていましたが、今回書評を書いて、他者にその図書の魅力をどう伝えようかと考えているうちに、ますますその図書について考えを深めることにつながり、私自身がよりその作品についての魅力を感じることに繋がったから。

「いいえ。」（23人）（理由）

- 卒業するから。
- 課題としての提出だから。
- 書評大賞以外のことで忙しいことが予想されるから。
- 何度も挑戦できると考えると自分の中で最高の結果が出せなくなるから。

Q4）執筆してみての感想や、提出方法など、お気づきの点を自由にご記入ください。

- 自分の感想を言語化するのがこんなに難しいことだとはじめて気づくことができた。
- 小説を読んだ感想をただ書くだけでなく技法や作者の工夫など、細かい部分まで知ることができた。
- いかに客観的に作品を分析し、そしてそこから自分のテーマに絞っていけるか。情報の取捨選択が難しかった。
- 自身が思ったこと感じたことを決められた枠の中で100％表現することが難しいと感じた。しかし少ない文字数の中で表現することで洗練された書評となり、中身の濃いものとなっていると実感している。
- 書評がどんなものでどのような構成で、何のために書かれるものなのかということが分かりやすくまとめられていれば、提出のハードルがかなり下がると感じた。
- 提出後に、応募受付メールや修正画面から添付したファイルの中身が確認できれば有難い。
- 賞の種類をもう少し分野ごとに分けてほしい。

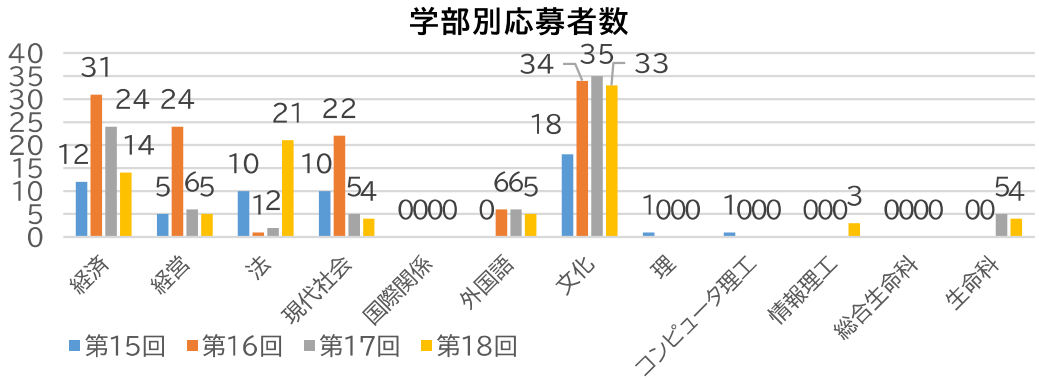
Q5）毎年「書評大賞講演会」を開催しています。今後の講演会に期待する内容・講師などのご希望がありましたらお書きください。

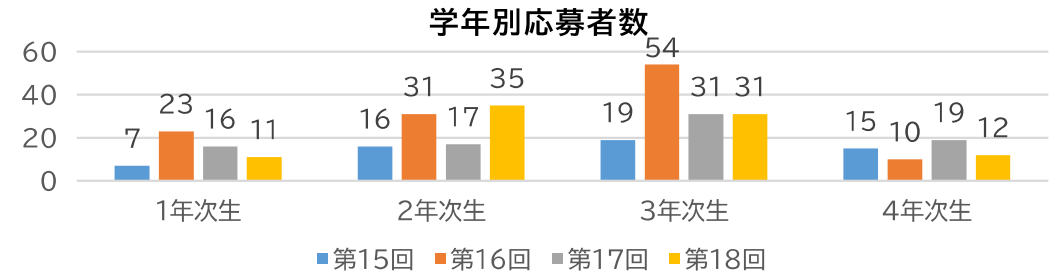
- 新聞でブックレビューを書いている文芸部の方や小説の編集者またはあとがきなど書いている方。
- 時事問題から小説を書かれるような方の講演を希望したい。
- 文学を研究している人の話を聴いてみたい。
- ウクライナ戦争についてなど現段階での世界情勢についての内容を聞きたい。

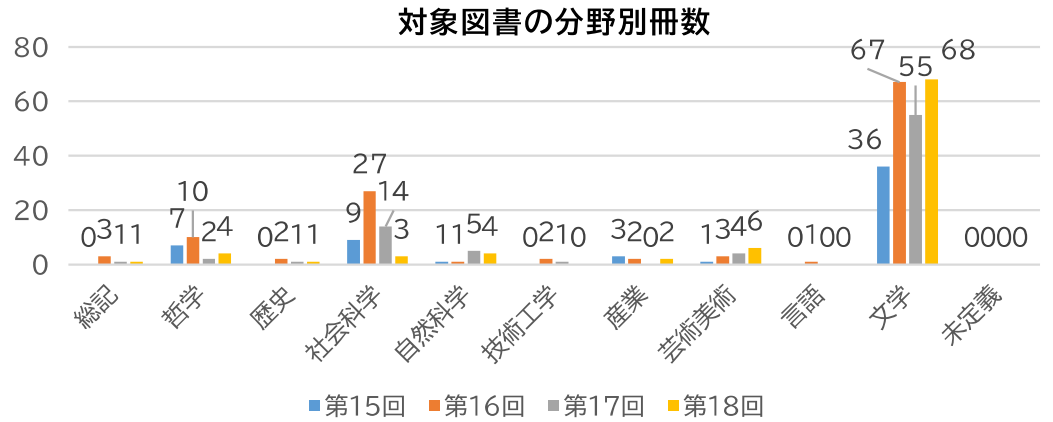
－ 希望する講演会講師（敬称略・五十音順）－

綾辻行人・知念実希人

統計はこちらです。







第18回書評大賞には89名から89作品の応募がありました。学部別応募者数は文化学部、法学部、経済学部の順となりました。応募者が増加した学部、久しぶりに応募者があった学部がある一方、応募者の減少傾向が続いている学部もあります。学生時代の間にぜひ本を読み、文章を書くことに腰を据えて取り組んでもらえればと考えています。

学年別応募者数は、2年次生・3年次生が比較的多い傾向がみられました。毎年書評大賞にチャレンジして複数回入賞されている学生もいます。ゼミ等の課題で出たからといった受動的な応募ではなく、自らチャレンジするという積極的な意思を持った応募をお待ちしています。

対象図書の分野別冊数では、文学に関する資料を選択した学生が圧倒的に多く、それ以外の分野は10件に満たない結果となりました。皆さんにとって文学作品が親しみやすく、書評を執筆しやすいという背景があると思われますが、図書館の蔵書を読むことで幅広い知識や教養を身に着けてもらいたいとも考えています。3年次生以下の皆さんは、ぜひ文学作品以外の図書への書評にもチャレンジしてください。

医師と作家のボーダーの歩き方
作家 海堂 尊
特集 図書館書評大賞講演会

2023 年 7 月 4 日(火)、作家であり医師である海堂 尊氏をお迎えし、京都産業大学図書館書評大賞講演会を開催しました。

会場である本学図書館ナレッジコモンズに加え、この模様は Microsoft Teams でも生配信しました。

海堂氏は 2006 年、『チーム・バチスタの栄光』でデビュー。

同作は、第４回『このミステリーがすごい！』にて大賞を受賞し、以降医療ミステリーを主軸に、多くの著作があります。

講演は、医師という職業を経て、どのように作家になったのかという話から、書評を書くというところの大きな枠組として、「作家になる、小説を書くための心得」といった話へ展開していき、興味深いトピックにあふれたものとなりました。

■医師から作家へ

海堂氏は以前勤務していた病院で、がん細胞の治療効果を病理学的に判定するというミッションのもと、業務に従事していました。この判定において重要なのは、がんの治療前と治療後の比較を、同じデバイス(手法)で行うことです。ところが従来のやり方では、病理学的には治療効果が判定できない、という結論に海堂氏は行き着いてしまいます。そのときに考案されたのが、Ai(オートプシー・イメージング=死亡時画像診断)です。

Ai を世の中に広めるべく、雑誌で Ai に関する連載を持ち、Ai の専門書を出版したものの、発行部数も少なく、世に浸透しませんでした。そこで海堂氏は「小説を書いてみたらいいんじゃないか」と思い至ります。

■「人は誰でも生涯で１冊は本を書ける」

海堂氏が作家になったきっかけの根底に、小学生のころに聞いた、「人は誰でも生涯で 1 冊は本を書ける」という言葉があります。

その言葉を聞いたことで、海堂氏は小学校 6 年生のときに、クラスメイトを登場人物にした小説を書き、クラス内で大ヒットとなりました。ところが、その後も何度か小説を書こうと思いましたが、なかなか書けなかったといいます。

ただ、誰でも 1 冊は本を書ける、という言葉があったことで、まだ書けないけれど、またそのうちに書けるだろう、と思うことができた。作家になろうとすると書けないときに焦るけれど、作家になろうとするのではなくて、一つの物語を書こうと思えば、プレッシャーにならなかった、と振り返ります。(加えて、この考えがあったから作家になることができたと語ります。)

海堂氏は、Ai の専門書を書き上げたことで、本を 1 冊仕上げるということがどういうことか、理解することができ、そこに Ai を使ったミステリーのネタを思いつきます。そして『チーム・バチスタの栄光』でデビュー。このデビュー作がヒットし、メディア展開もされ、海堂氏の人生も、Ai をめぐる世の中も、大きく変わりました。

■物語は飛行機

海堂氏は、物語を書くということは飛行機の操縦のようなものだ、と例えます。

「飛行機を離陸させて、飛ばして、そして着陸させる。これが“物語をつくる”ということだと思っています。このときに大変なのは、“離陸”させることと“着陸”させること」

「飛んでいるところも大変は大変なんですけど、ここは文章力を磨くことで備えることができる。燃料さえ給油してあれば、(飛行機は)飛び続ける」

また海堂氏は物語を書くときに、いつもプロット(あらすじ)を立てないと言います。

「思いついて書いて、そして思うがまま書いていく」

「着陸地点が、ちゃんと分かっていないと書かない。つまり着陸地点が分かっていれば、物語は収束するだろう」

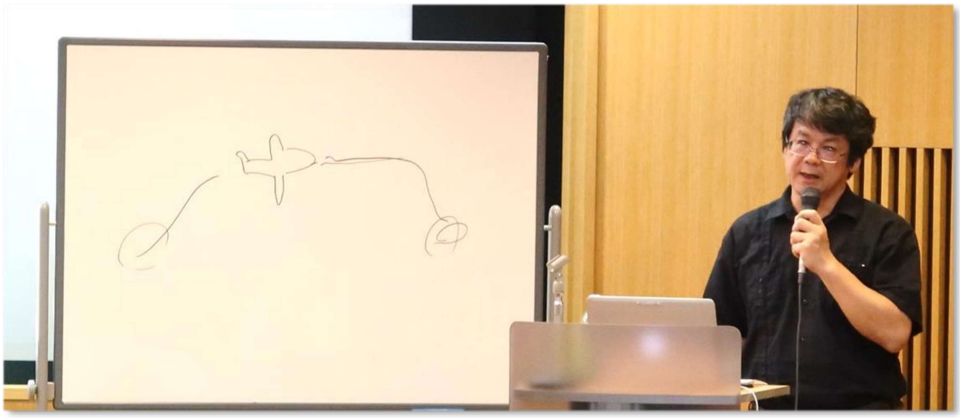
特にミステリー作品を作る場合にこうした方法は顕著であり、「離陸のところは(『チーム・バチスタの栄光』においては)まさに Ai を導入したいという気持ちで、Ai をどうやってトリックに結びつけて、そして展開していこうかということを考えることで、離陸できたわけです」と語っています。

■書評をどう書くか

書評を書くということは、ひとつの感想文を書くという以上に、ひとつの作品を作れば、読む人を惹きつけることができると海堂氏は語ります。

書評を書くにあたって気にしなければならないことや、取り入れるとよいことは？という質問を受け、「わたしは書評を書くよりも、書かれる方が圧倒的に多いです。書かれるときに、どういう書評が心に残るかというと、一言でいうと“愛がある書評”ですね」と答えます。それは「“この作品が好きだ”と伝わってくる書評」ということで、これを伝えるには、「その作品が本当に好きで、どこが好きなのかを煮詰めるということが大事だと思います」と答えました。

書評に必要なのは、この作品がどういう作品か、ということを伝えることと、自分の思い、の二本柱だと海堂氏は続けます。この二つを比率にすると、作品の骨格を説明する部分が 3 で、自分がこの作品を好きだ、ここが素晴らしいという思いを 7 という 3：7 の割合で埋められた書評が、海堂氏が作家として読みたい書評だと語ります。さらに「作家が読みたいと思う書評は、絶対に多くの読者を惹きつけるはず」と参加者に伝えました。



「物語は飛行機」
と語る海堂氏

質疑応答

会場、オンラインともに質問が飛び交い、大いに賑わいました。その中の一部となりますが、ご紹介します。

Q. 執筆にあたって大切にしていることを教えてください

A. 面白い物語を書くということを大切にしています。だから、面白くない物語は書いてはならない。ただ、それには自分が面白いと思うこと、これが大前提です。もちろん自分が面白いと思っても、ほかの人が面白いと思うかどうかはわかりません。最初は自分が楽しむために書いて、次に、人を楽しませるために書き直すという過程になります。

Q. たくさんの仕事を抱えておられると思いますが、1 日の時間をどのように工夫して分割していますか？

A. やる仕事をまとめてやると能率がいいです。つまり、連載にしても 3 か月分くらいをいっぺんにやっちゃうんです。毎月毎月、毎週毎週やっているとその都度（それまでの内容を）思い出さなければいけない。でも、一気にやるとその時間が省けるので効率的。あと作家は自由業なので、何時に起きて何時に寝てもいい。本当に執筆が大変なときは一日を 2 つ、3 つに分けます。たとえば一日 24 時間じゃなくて 12 時間、8 時間睡眠じゃなくて、4 時間睡眠というように割ります。

Q. 近年 AI（人工知能）が発展してきていますが、小説の分野において AI が及ぼす影響などどうお考えですか？

A. わたしにとってエーアイはオートプシー・イメージングなので、AI（人工知能）のことについてはあまり考えないのですが（笑）、Chat GPT とかは優秀だという話は聞いています。ただ、興味はありません。なぜかというと、写真がありますよね。写真があるのに風景画は今も存在していますよね。Chat GPT とかは写真のようなものだと思います。だから写真を撮れば風景画がなくなるかというと、そんなことは絶対にない。Chat GPT がどんなに優れていても、多分人間が書く小説はなくならない。ということは、小説を書くのが生業のわたしは、Chat GPT に興味を持つ必要がないということです。

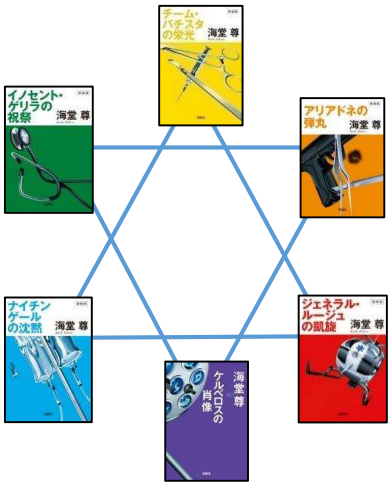
海堂尊氏の著作

◆世界観について

海堂氏は、『チーム・バチスタの栄光』でデビュー後、作品を同じ世界観で書く戦略を打ち出しました。『チーム・バチスタの栄光』から始まった、これらの作品群は桜宮市という、東海地方にある架空の市がメインの舞台となっており、「桜宮サーガ」(書評家・東えりか氏命名)と名付けられています。

それぞれの作品の登場人物や出来事が、別の作品とリンクしているので、読めば読むほど世界がどんどん広がっていくのを感じます。作品同士のつながりを意識して、読んでみるのも面白いです。

ここではその世界観を少しご紹介します。



◎宝島社から刊行されているメインシリーズ

桜宮市にある、東城大学医学部付属病院を主な舞台に展開されるミステリーです。

メインとなるキャラクターは、不定愁訴外来の医師・田口公平と、厚生労働省の役人・白鳥圭輔のコンビ。

全 6 作、各表紙の色から六芒星のようなつながりになっています(3×3、三原色(黄・赤・青)と中間色(緑・紫・オレンジ)の構造)。

◎過去編・未来編

『チーム・バチスタの栄光』から始まるシリーズは、海堂氏のデビュー年・2006 年からに設定されましたが、1988 年から 91 年を舞台にした過去編、2022 年から 23 年を舞台とした未来編があります。

海堂氏は「遠い未来の話だと思っていた未来編が、気がついたら今のことになっている」と振り返っています。

過去編

未来編

◆講演会でお話しされた本をピックアップして紹介します。

『螺鈿迷宮』 海堂尊, 角川書店, 2013 (913.6||KAI　2 階・文庫)

海堂氏には、「崩壊三部作」と銘打って、『チーム・バチスタの栄光』(原題は『チーム・バチスタの崩壊』)から連なるシリーズを書く構想があり、この構想のうち、本作は終末期医療をテーマとした、「碧翠院桜宮病院の崩壊」を描いた作品。

海堂氏は大学院生時代、当時ヒットしていたホラーミステリーに触発されて、やはり小説を書きたいと思っていたといいます。しかし 5 枚で挫折。

けれども、『チーム・バチスタの栄光』を書き上げた後に、かつて書こうとしたが挫折した物語があったことを思い出します。そこで再び書いてみたら書ききることができ、この『螺鈿迷宮』という作品になりました。そういった意味でこの作品は「構想 10 年」とされています。

海堂氏は「書けるときがきたら書ける、という例ですね」と振り返っています。

コロナ三部作

『コロナ黙示録』,『コロナ狂騒録』,『コロナ漂流録』

海堂尊，宝島社，2022(913.6||KAI　2 階･文庫 ほか)

日本の現状と、桜宮サーガを融合させたような作品。

政権交代、オリンピックなど、日々目まぐるしく変化していく中で、新型コロナウイルスへの日本政府の対応を受けて、書かなければと思い、結果的に三部作となったシリーズ。

海堂氏は今起こっていることに関する情報を、間違いなく収束させながら物語も書いていく、しかも短期間で、という執筆スタイルであったので、非常に疲れたと当時を振り返っています。

質疑応答で、三部作を書き終えた感想を聞かれると、

「今思い返すと、やっておいて本当によかったと思います」

「(コロナの)真っ只中に書いたということは、歴史です。歴史は改変され、改ざんされつつある。この(コロナ)三部作は、この時期に残せた貴重なデータになると自負しています」と返しました。

『ゴーゴーAi：アカデミズム闘争 4000 日』

海堂尊，講談社，2011(491.6||KAI　3 階)

Ai を社会的に導入するにあたって、立ちはだかった学会や官僚との対立を、淡々とまとめたノンフィクション、「放言三部作」の第一作目。

挿絵は、絵本作家のヨシタケシンスケ氏。海堂氏が、Ai の入門書(『100 万人のオートプシー･イメージング(Ai)入門』)を書く際に、表紙の挿絵をお願いしたことから、最初の縁がつながりました。その後、桜宮サーガの未来編に位置付けている、『医学のたまご』の担当編集の方が、ぴったりの挿絵だということでヨシタケ氏を起用し、再び縁がつながります。それからというもの、「医学のたまごシリーズ」をはじめ、ヨシタケ氏は海堂氏の著作の挿絵を複数手掛けています。

この『ゴーゴーAi』は、Ai を推進していく中で起こった、アカデミズム世界からの妨害の事実と、それに対する批判を痛烈に綴った作品ですが、ヨシタケ氏の挿絵が挟まれることで、本作の持つイメージが少し柔らかいものになっています。

本書カバー裏表紙の、ヨシタケ氏が描いてくれた自画像が、海堂氏はお気に入りとのことです。

そのほか講演会で挙げられた作品をコメント付きでご紹介します。

影響を受けた作品というよりも、よく頑張って読んだなと思う作品です。

『失われた時を求めて』

マルセル･プルースト；鈴木道彦訳，集英社，2006(953.7||PRO 2 階･文庫)ほか

小説の書き方は基本独学で、作家になることを意識して読んでいたというわけではなく、単純に読み物として面白いなと思って読んでいました。

『スティーヴン･キング小説作法』

スティーヴン･キング；池央耿訳，アーティストハウス，2001(930.278||KIN 2 階)

第18回「京都産業大学図書館書評大賞」で応募があった図書一覧

請求記号順
書名の【　】内は，応募点数

書名	著者	出版社	出版年	図書館所蔵情報	
				請求記号	資料ID
正義を振りかざす「極端な人」の正体	山口真一	光文社	2020	007.3||YAM	01390594
10年後、後悔しないための自分の道の選び方	ボブ・トビン	ディスカバー・トゥエンティワン	2016	159.4||TOB	01379879
君たちはどう生きるか	吉野源三郎	岩波書店	1982	159.5||YOS	20211423
20代にしておきたい17のこと	本田健	大和書房	2010	159.7||HON	20231191
移動力	長倉顕太	すばる舎	2019	159||NAG	01390597
知覧いのちの物語	鳥濱明久	きずな出版	2015	289.1||TOR	01390598
行動経済学の逆襲	リチャード・セイラー著；遠藤真美訳	早川書房	2016	331||THA	01306919
フェイクニュースがあふれる世界に生きる君たちへ　世界を信じるためのメゾット	森　達也	ミツイパブリッシング	2019	361.453||MOR	01388207
丸刈りにされた女たち：「ドイツ兵の恋人」の戦後を辿る旅	藤森晶子	岩波書店	2016	367.235||HUZ	01307315
バイオパンク DIY科学者たちのDNAハック！	マーカス・ウォールセン	NHK出版	2012	460.4||WOH	01233034
LIFE SCIENCE 長生きせざるをえない時代の生命科学講義	吉森保	日経BP	2020	463.6||YOS	01390596
ゲノム編集を問う―作物からヒトまで	石井哲也	岩波書店	2017	467.2||ISI	01322025
ゾウの時間　ネズミの時間　サイズの生物学	本川　達雄	中央公論新社	1992	481.3||MOT	00656590
一勝九敗 【2】	柳井正	新潮社	2006	673.78||YAN	20220452
それでもあなたは美しい オードリーヘップバーンという生き方	山口路子	ブルーモーメント	2020	778.253||YAM	01390595
佐賀のがばいばあちゃん	島田　洋七	徳間書店	2023	779.14||SIM	20231189
ホームレス中学生	田村裕	幻冬舎	2010	779.14||TAM	20231179
ナナメの夕暮れ	若林正恭	文藝春秋	2021	779.14||WAK	20230255
奇跡のバックホーム	横田慎太郎	幻冬舎	2022	783.7||YOK	20231188
エンジニアが明かすF1の世界	小松　礼雄	東邦出版	2019	788.7||KOM	01390593
塩の街	有川浩	角川書店	2010	913.6||ARI	20212221
六人の嘘つきな大学生	浅倉秋成	KADOKAWA	2021	913.6||ASA	01379742
正欲	朝井リョウ	新潮社	2021	913.6||ASA	01381689
『富嶽百景・走れメロス：他八篇』より「女生徒」	太宰治	岩波書店	1999	913.6||DAZ	20212810
『走れメロス』より「女生徒」	太宰治	新潮社	2005	913.6||DAZ	20220577
この闇と光	服部まゆみ	KADOKAWA	2014	913.6||HAT	20231182
ラーゲリより愛を込めて 【2】	辺見じゅん	文藝春秋	2022	913.6||HEN	20231184
人魚の眠る家	東野圭吾	幻冬舎	2018	913.6||HIG	20190514
沈黙のパレード	東野圭吾	文藝春秋	2021	913.6||HIG	20210819
容疑者Xの献身	東野圭吾	文藝春秋	2008	913.6||HIG	20221991
ようこそ地球さん	星新一	新潮社	2012	913.6||HOS	20221076

第18回「京都産業大学図書館書評大賞」で応募があった図書一覧

請求記号順
書名の【 】内は，応募点数

書名	著者	出版社	出版年	図書館所蔵情報	
				請求記号	資料ID
ピエタとトランジ	藤野可織	講談社	2022	913.6||HUZ	20231186
神様の裏の顔	藤崎翔	KADOKAWA	2016	913.6||HUZ	20231194
むらさきのスカートの女	今村夏子	朝日新聞出版	2022	913.6||IMA	20224080
死神の精度	伊坂幸太郎	文藝春秋	2008	913.6||ISA	20211215
僕は天国に行けない	丰坂暁	講談社	2020	913.6||ISA	20231193
波のうえの魔術師	石田　衣良	文藝春秋	2003	913.6||ISI	20223591
女學校	岩井志麻子	中央公論新社	2006	913.6||IWA	01094949
王様ゲーム　終極	金沢伸明	双葉社	2011	913.6||KAN	20231192
余命10年	小坂流加	文芸社	2017	913.6||KOS	20224156
会社を潰すな！	小島俊一	PHP研究所	2019	913.6||KOZ	20191282
火花	又吉直樹	文藝春秋	2015	913.6||MAT	01289903
三日間の幸福	三秋　縋	KADOKAWA	2013	913.6||MIA	20190712
Nのために	湊かなえ	双葉社	2014	913.6||MIN	20141275
ユートピア	湊かなえ	集英社	2018	913.6||MIN	20181887
告白 【2】	湊かなえ	双葉社	2010	913.6||MIN	20221774
よだかの星	宮澤賢治	パロル舎	1995	913.6||MIY	00955319
羊と鋼の森	宮下奈都	文藝春秋	2018	913.6||MIY	20181834
すべてがFになる THE PERFECT INSIDER	森博嗣	講談社	1998	913.6||MOR	20212715
カラフル 【2】	森絵都	文藝春秋	2007	913.6||MOR	20223509
夜行	森見登美彦	小学館	2019	913.6||MOR	20231195
女のいない男たち	村上春樹	文藝春秋	2014	913.6||MUR	01274488
流浪の月	凪良ゆう	東京創元社	2019	913.6||NAG	01379494
西の魔女が死んだ	梨木香歩	新潮社	2001	913.6||NAS	20220556
タイタン	野崎まど	講談社	2023	913.6||NOZ	20231187
蜜蜂と遠雷	恩田陸	幻冬舎	2019	913.6||OND||1 913.6||OND||2	20190421 20190422
そして、バトンは渡された 【2】	瀬尾まいこ	文藝春秋	2020	913.6||SEO	20200749
猟犬の國	芝村裕吏	KADOKAWA	2019	913.6||SIB	20231183
きみの友だち	重松清	新潮社	2008	913.6||SIG	20220897
小説　天気の子	新海誠	KADOKAWA	2019	913.6||SIN	20231190
君の膵臓をたべたい 【2】	住野よる	双葉社	2017	913.6||SUM	20170297
硝子の塔の殺人 【2】	知念実希人	実業之日本社	2021	913.6||TIN	01390592

第18回「京都産業大学図書館書評大賞」で応募があった図書一覧

請求記号順
書名の【 】内は，応募点数

書名	著者	出版社	出版年	図書館所蔵情報	
				請求記号	資料ID
#拡散希望 その炎上、濡れ衣です	冨長御堂	宝島社	2023	913.6||TOM	20231185
かがみの孤城 【3】	辻村深月	ポプラ社	2021	913.6||TUZ||1 913.6||TUZ||2	20231180 20231181
変な家	雨穴	飛鳥新社	2021	913.6||UKE	01374400
百年法	山田宗樹	KADOKAWA	2015	913.6||YAM||1 913.6||YAM||2	20223095 20150452
氷菓	米澤穂信	角川書店	2001	913.6||YON	20161857
憂鬱なる党派	高橋和巳	河出書房新社	1969	918.68||T||3	00164814
黒猫；アッシャー家の崩壊	エドガー・アラン・ポー著；巽孝之訳	新潮社	2009	933.6||POE||1	20211314
空間亀裂	フィリップ・K・ディック	東京創元社	2013	933.7||DIC	20133523
アンドロイドは電気羊の夢を見るか？	フィリップ・K・ディック	早川書房	2011	933.7||DIC	20224308
老人と海	ヘミングウェイ	新潮社	2020	933.7||HEM	20220725
一九八四年	ジョージ・オーウェル	早川書房	2009	933.7||ORW	20223283
蠅の王	ウィリアム・ゴールディング	集英社	1978	933||GOL	00718198
ライ麦畑でつかまえて	J・D・サリンジャー	白水社	1984	933||SAL	00868945
魔の山	トーマス・マン	新潮社	2005	943.7||MAN||1 943.7||MAN||2	20223326 20223327
星の王子さま 【2】	アントワーヌ・ド・サン=テグジュペリ	宝島社	2005	953.7||SAI	01084723
異邦人	アルベール・カミュ	新潮社	1965	958.7||GEN||1	01318882
血の婚礼	ガルシーア・ロルカ	岩波書店	1992	962||GAR	20212046

＜選考委員より ひとこと＞

【大平　睦美　委員長】
今回の応募作品を読んで、書評は読書の羅針盤のようだと感じました。目的をもった読書も大切ですが、目的を持たずなんとなく本を読んでみたい時、書評を見て自分では気がつかない、あまり興味を持たない本にも挑戦して下さい。新たな発見があると思います。

【東　園子　委員】
私が大学生の頃は電車の中で文庫本を読む人をよく見かけましたが、それがスマートフォンでのゲームや動画に取って代わられた現在、本を読み、書評を書いてみた学生さんがこれほどいることに驚き、喜ばしく思いました。

【伊藤　豊　委員】
普段Amazonで本を買うときはいつも星の数や書評を読んでから決めている。低評価の方が参考になることも多い。今回、応募書評を読む機会を得てみて、いかに大変な仕事であるかよくわかった。

【岩﨑　周一　委員】
丁寧で的を射た書評が多く、読んでいて感心させられた。新聞等での書評によく似たスタイルで書かれたものが目立ち、よく研究しているという印象をうけた。ただ、もっと気持ちを強く押し出した文章があっても良かったかと思う。

【上野　達也　委員】
非常に楽しくみなさんの書評を読ませていただきました。「自分の好きな本を読んでもらいたい」、「自分の好きな本について語りたい」という思いのこもった書評は、読んでいてとても楽しいものでした。

【福冨　言　委員】
文学的表現や作家の主義信条、時代性、他作品との相対性、何なら否定的見解など、作品の「論評」という点でこれらについての検討が物足りなく感じました。

【山本　和也　委員】
皮相な動画やSNSの洪水の中にある現在、電車やバスのなかで読書をする人を見かけると心が和むようになりました。これからも皆さんがさまざまな書籍を読み続けることを期待しています。

【島田　武範　委員】
最近の社会情勢として、何でも即座に結果を求める風潮があるように感じています。このような時代だからこそ、一旦立ち止まって本をゆっくり読み、じっくり文章を書くことに取り組んでもらえればと考えています。

【田中　雅子　委員】
選考作業の中で気づいたのは、最近の人気小説だけでなく昔から読み継がれている作品を選ぶ学生さんが少なくないことです。「この作品はこんな視点から捉えることもできるのか！」という再発見をしながら、楽しく読ませていただきました。

【森本　太郎　委員】
書評に限らず、ものの良し悪しを自ら考えて評価し、その要点を他者に分かりやすく伝えることは簡単ではありませんが、大切なことだと思います。皆さんにとって、本賞がその機会の一つになっていれば嬉しいです。

【吉田　浩史　委員】
使える字数が減った影響を心配していましたが，そんなの忘れるくらい皆さんの作品楽しく拝読させていただきました。今回は入賞を逃した！という方もまたぜひご参加ください。

＜第18回 京都産業大学図書館書評大賞 概要＞

目的

（1）学生同士が本を推薦することでお互いに刺激を受け、読書活動が推進され、結果として図書館利用を促進する。

（2）興味ある著作を読みこなし、内容を簡潔にまとめながら論理的な批評を加えてゆく書評作業は、図書館を利用する学生の読解力や論理的思考能力、文章表現能力を向上させ、レポート・論文作成能力、情報活用能力を育成する有効な手段となる。

応募要領（抜粋）

1. 応募資格　京都産業大学の学部学生

2. 応募要件

（1）対象とする図書の所蔵は問わない。ただし、マンガ・雑誌・写真集は除く。

（2）使用する言語は、日本語とする。

（3）文字数：1篇につき 800 字以上 1,200 字以内。※前回から文字数が変更になりました
原稿は、所定の応募原稿様式*を使用して作成すること。
*応募原稿様式（本学所定のマイクロソフト社 Word ファイル）は、図書館 Web サイト（https://www.kyoto-su.ac.jp/library/）から入手すること。

（4）応募作品は本人のオリジナルであり、かつ未発表であること。
（解説等公開済文章の盗用は厳禁です。ChatGPT 等 AI の使用は控えてください。）

（5）その他：1人複数篇の応募可。ただし入賞は1人1篇。応募作品の著作権は京都産業大学に帰属する。

応募実数

89名89篇

実施日程

応募期間：2023年5月22日（月）～ 7月24日（月）
入選発表：2023年11月24日（金）
表 彰 式：2024年1月17日（水）